

## 令和6年2月開催 議会報告会での市に対するご意見・ご要望とその回答

(意見交換会から)

**要望1** 除雪オペレーターの変更により、除雪の精度が落ちている。オペレーターに技術講習会や作業基準の説明を行っているか。行政でも技術指導していくべきではないか。 [土木課]

**回答** 除雪作業は、さまざまな道路状況に応じて、瞬時の判断と高度な機械操作が求められますが、オペレーターの高齢化や人材不足は、年々深刻化しており、大きな課題となっております。

市では、今冬の除雪シーズン前に、「大館市道路除雪業者表彰」制度を創設いたしました。この制度は、業者の除雪業務に取り組む意欲の向上を図るとともに、オペレーターの除雪技能の向上や後進の育成強化など、質の高い除雪体制を確保するための取り組みとして実施したところです。

また、こうした課題を克服するため、除雪機械の維持やオペレーターの確保、育成の一助として、平成24年度から除雪業者へ固定経費制度を導入しております。

オペレーターの育成には一定程度の時間が必要であることから、今後も固定経費制度等を維持・活用しながら、業者への指導・助言を継続してまいります。

**要望2** 遊休農地が増え、クマ被害が増えている。官民が連携した遊休農地の活用策やクマ対策を実施してほしい。 [農政課]

**回答** 昨年のクマの目撃報告は過去最多となっており、農村地域ばかりでなく、市街地でも多くの目撃が報告されました。その原因は、えさ不足や緩衝地帯となる農村地域を含む里山の荒廃によるものとされております。

農村地域は国土保全、水源の維持、自然環境の保全、良好な景観の形成など多目的な機能を有しており、多くの農村地域では、地域住民の組織により多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度を活用し、農地や周辺環境の維持・管理を行っておりますが、高齢化や人口減少などの要因から、遊休農地の増加が懸念されております。

遊休農地の発生を抑制するためには、耕作者が不在となった農地が、次の農業者へ速やかに継承される体制づくりが必要となることから、市では農業者のみならず地域住民を交え、農地利用の将来像を描く、地域計画の策定を進め、遊休農地の発生を抑制し、農地の利用促進を図ってまいります。

**要望3** 太陽光パネルの設置が増える中、一部の設置業者が草刈りを怠り、クマなどの野生動物の出没が問題となっている。適切な管理と対策を講じてほしい。

〔林政課〕

回答 ご要望につきまして、太陽光パネル設置事業者を含む民間事業者や一般市民に対して、野生動物による被害防止のため、管理地の草刈りや誘引物の除去などの呼び掛けを行ってまいります。また、市としても、クマなどの野生動物と人の生活圏を隔てる緩衝帯整備のほか、市有地の草刈りも適切に行ってまいります。

**要望4** クマの出没情報を地域住民全員が得られるためにも、現状のラジオやアプリのほか、より効果的なデジタルツールの活用を検討してほしい。また、麻醉銃や猟銃を使用できない住宅地等での対策についても知る機会がほしい。

〔総務課、林政課〕

回答 現在、クマ出没時の情報発信は、X（旧ツイッター）やFMラジオおおだてでの放送、同社が提供するスマートフォンのアプリ「FM++（プラプラ）」での文字情報の配信を行っているほか、Google マップで過去の目撃情報を公開しております。

引き続き、現在の情報発信ツールの利活用を周知するとともに、他の情報発信手段の活用についても、常に検討してまいります。

住宅地等での対策につきましては、まずはクマを住宅地に近づけないことが重要であることから、クマの生息地と人の生活圏を隔てる緩衝帯の整備や適切な草刈りを実施するほか、集落や農地におけるクマ誘引物の除去を徹底するよう呼びかけを行ってまいります。

住宅地においては、猟銃の使用が可能となるケースはごく限られており、周辺住民や捕獲活動従事者の安全を確保した上での追い払いが基本となります。

また、状況に応じ、緊急的に箱わなによる捕獲を行い、麻醉銃を使用する場合があります。いずれの現地活動でも、市職員や警察などが現地の状況に応じて広報や注意喚起などを行いますので、ご協力をお願いいたします。

なお、現在、県では1丁の麻醉銃で全県をカバーしている状態でありましたが、新たに北秋田地域振興局にも麻醉銃を配置する予定としており、これまでより早急な対応が可能となる見込みとなっております。

クマへの対策を知るため、県が行っている出前講座「野生動物の生態と対策について」もご利用いただけますので、林政課または県の自然保護課にご相談ください。

**要望5** 人口減少が進む中、地域の特性に合った医療体制の確保を、一次医療機関と連携して行ってほしい。〔市立総合病院医事課〕

回答 本市及び周辺地域における医療水準を維持したまま、一次医療から二次医療までの医療ニーズに対応するためには「機能分化と連携」の推進が重要です。がん、糖尿病、循環器等の領域で実施している、地域連携パスによる二人主治医制の推進につきまして、他の診療科でも広げていけるよう、大館北秋田医師会等と協議してまいりたいと考えております。

**要望6** 病院事業経営強化プランは、市民のために安心できる計画にしてほしい。

〔市立総合病院経営企画課〕

回答 少子高齢化の進行に伴う医師・看護師等の不足や二次医療圏の再編等の周辺環境の変化に対応し、今後も市立総合病院が地域医療を支え、市民の健康と安全に継続的に寄与するため、経営の健全化を図る計画としております。

**要望7** 行政に町内会の担当窓口がない。札幌市には「札幌市未来へつなぐ町内会ささえあい条例」がある。議論してほしい。〔総務課〕

回答 少子高齢化、共働きや定年延長など、人口減少や家族形態の多様化が進む中、町内会運営においても役員のなり手や活動への参加者が少ないなど、さまざまな課題が生じていると捉えています。そのような状況にあって、町内会の運営方法や在り方は、各町内会の実情に応じ、議論していくべき時期であると考えております。

町内会は地域社会を支える重要なパートナーであり、福祉分野など暮らしに関わる様々な関係機関、事業者、企業を含め、より一層連携していく必要があると考えております。

町内会からいただく相談は専門性が求められる内容が多く、所管部署で対応していますが、町内会で活用いただける助成制度のメニュー化を行うほか、市から町内会に依頼する案件など、市と町内会との関係の在り方につきましても検討してまいります。

(アンケートから)

**要望1** いつまで秋田犬のみに頼った観光づくりをするのか。観光のためにも、道路、移動のインフラ整備をもっとしてほしい。〔観光課、交流推進課〕

回答 本市は、世界自然遺産と世界文化遺産、そして国立公園に囲まれるなど、北東北の中心に立地し、人口減少により地域経済が縮小していく中で、交流人口の拡大による外貨獲得は最も重要な政策の一つとして位置付けてまいりました。

た。そして、ここ大館を世界からの目的地とするため、その象徴となる「秋田犬」を活用した観光振興に9年間取り組んできたところです。

昨年実施した一連のHACHI100事業は、テレビ、新聞、SNS等で多数とりあげられ、日本のみならず、世界中にその情報が拡散されました。

ご要望の観光振興のための道路、移動のインフラ整備につきましては、観光の満足度を向上させる重要なツールのひとつであります。本市は鉄道、空路、それを結ぶ高速交通網が整備されておりますので、これらを活用し、より利便性の高い交通手段の創出に向けて、交通事業者と協議を重ねてまいります。

**要望2 市のクマ対策費用は、県の真似をただけに見える。市独自の対策を考えてほしい。** 〔林政課〕

回答 今年度、過去最多となるクマの出没により、捕獲したクマの運搬や解体等に係る負担が増大している捕獲従事者に対し、県と市が慰労金を支払うことといたしました。

また、狩猟免許取得費用につきましても県と市の補助制度を合わせて活用することで、少額の自己負担で免許を取得することが可能となっております。

市単独の補助制度といたしましては、農作物被害防止に向けた電気柵設置に対する補助があるほか、令和6年度からは、捕獲用の檻をこれまでの20基から30基へ増やすなど捕獲体制を強化してまいります。

さらに新たな取り組みとして、野生動物撃退装置を取り扱っている民間事業者や国立大学の農学博士との連携により、鳥獣被害対策機器の実証試験を行う予定となっております。この実験は県内初となる取り組みであり、その有効性が認められた際には、今後の本市における鳥獣被害対策に大きな役割を果たすものと期待しております。

**要望3 市のリーダーとなるべき人材育成について研究してもらいたい。**

〔企画調整課〕

回答 本市では、「ふるさとキャリア教育」を通じて児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育成しております。

また、「大館市子どもサミット」では、学校では経験できないさまざまな活動を通じて、ふるさとを担う地域の一員としての自覚を育むとともに、自主性、リーダーシップの向上を目指しております。

今後これらの学びの場を継続していくことにより、ふるさとを愛する、リーダーとなるべき人材が誕生していくものと期待しております。

**要望4 除雪の予算は、余るとどうなるのか。** [土木課]

回答 除排雪に関する予算の余剰金につきましては、不用額として処理することになります。

**要望5 病院事業の収益を上げるためには自費扱いの健診をもっと推進していけばよいのではないか。** [市立総合病院経営企画課]

回答 扇田病院の人間ドック、企業健診・特定健診などの受診者実績は、年間約1,800人、月平均にすると約150人ほどであり、貴重な医業収入のひとつとなっております。

健診事業のさらなる推進には、専任医師の継続的な確保や医療機器整備などにおいて課題があります。しかしながら、現在市に健診センター等がないことから、今後も現状を維持しながら収益の確保につなげていきたいと考えております。

総合病院は、急性期医療を中心に地域の中核病院としての役割を担っており、周辺医療機関と連携しながら公立病院に期待される小児、周産期、救急などの医療の提供に努めております。

今後も、総合病院は二次医療機関として、他の医療機関から紹介された患者の精密検査や治療を行うため、医療機能の充実を図ってまいります。

**要望6 扇田病院は、補助金に頼らないと黒字化できないのか。** [市立扇田病院]

回答 現在、扇田病院で稼働している病床82床（療養病床42床、地域包括ケア病床40床）のうち半分以上が慢性期病床です。

慢性期病床の特質といたしましては、施設で必要とする人員配置に係る費用に対し、それに見合うだけの入院収益を確保できない制度上の問題があり、扇田病院が補助金に頼らずに黒字化を目指すことは、非常に困難な状況にあります。

そのため、病院事業経営強化プランでは、より効率の高い病床構成とするべく、令和7年度から40床（回復期30床、慢性期10床）の1病棟体制として経営強化に取り組んでまいります。

**要望7 医師確保を頑張ってもらいたい。市立病院の待ち時間対策も検討してほしい。**

[市立総合病院総務課・医事課]

回答 医師確保につきましては、引き続き弘前大学や秋田大学へ派遣依頼を行うとともに秋田県と連携しながら、医療職への就業につなげるため、高校生を対象にしたフューチャードクターセミナーや病院見学会を今後も実施してまいります。

ます。

外来診療の待ち時間につきまして、総合病院では、限られた医師が救急患者や入院中の重篤患者などを優先して対応するため、長くなっております。今後も引き続き医師の確保に努め、待ち時間を少しでも短縮できるよう取り組んでまいります。

**要望 8** 未来づくりプランに関しパブリックコメントを書いたが、今後も市民と話し合う時間をつくってほしい。 [企画調整課]

回答 市に対するご意見につきましては、メール（e-HOT 函）や市役所本庁舎及び比内・田代総合支所へ設置している意見箱（HOT 函）でいつでも受け付けております。

また、各種計画の策定に当たっては、今後もパブリックコメントを実施し、地域の皆さまの要望を広く市政に反映させてまいります。

**要望 9** パブリックコメント募集について、もっと SNS を活用すべき。病院事業経営強化プランに関しては、市のホームページではなく、市立病院のホームページに掲載されていたため、発見が遅れ、締切に間に合わなかった。新聞以外でも周知してほしかった。 [総務課]

回答 パブリックコメントの実施に当たり、今後、SNS を活用した周知を行ってまいります。

なお、これまでパブリックコメントを実施する際、市ホームページ上で、個別に記事を掲載しておりましたが、新たにパブリックコメントを集約するページを作り、検索性の向上を図っております。

**要望 10** 学び、資格取得、給与アップなど、若い人にお金を投資する市であってほしい。 [企画調整課]

回答 社会人の学び直しを目的としたリカレント教育事業や、時代に即した能力を得るための資格取得支援事業を実施し、さまざまな分野で活躍できる人材づくりを進めております。

また、幅広い世代の移住や A ターンの推進に向けた相談体制の充実や、移住支援金による助成などの重層的な取り組みにより、住みやすく暮らしやすいまちづくりを進めております。

**要望 11** 水害、クマ出没地などを盛り込んだ、精度の高いハザードマップを作成してほしい。 [危機管理課]

回答 令和4年10月に毎戸配布した大館市防災マップ(防災ハザードマップ)は、市民一人ひとりが自分の住む場所の水害や土砂災害の危険度を把握し、命を守る行動につながるように作成しております。

また、今後、修正する際には、内水ハザードの表示も検討しており、最新のデータと情報を組み入れ、より見やすく、分かりやすい防災ハザードマップとなるよう努めてまいります。

なお、防災ハザードマップは、自然災害による洪水などのリスクを把握するためのものであり、クマの出没場所を加えることは、混乱を招く可能性があると考えております。現在、クマの目撃情報を含め、さまざまな情報をマップ上で重ねて表示できるよう電子版ハザードマップの検討を進めており、作成に向けて取り組んでまいります。